

6. 精神看護学実習

精神看護学実習

1) 実習目的

精神に障害を持つ対象を理解し、関わりを通して適切な看護を学ぶ

2) 実習目標

- (1) 精神に障害を持つ対象を理解する。
- (2) 患者が入院している環境を理解する。
- (3) 対象者の生活の質を向上するために必要な看護を理解する。
- (4) 精神に障害を持ちつつ対象が社会生活を送るための社会資源を理解する。
- (5) 患者との関わりを振り返り、自己を理解、自己活用について理解する

3) 実習単位と時期

実習科目名	時間数（日数）	実習時期	備考
精神看護学実習	90 時間（12 日） 学内 2 日間 + 臨地 10 日間	3 年次全期～4 年次前期	精神科病棟

4) 到達目標

実習目標	到達目標	学習課題
(1) 精神に障害を持つ対象を理解する	①対象者の健康障害に至るまでの経過とその背景を説明できる ②疾病や症状による生活への影響を理解できる ③対象の健康管理（治療薬等）について理解できる ④入院に対する思いや考えを理解できる ⑤対象の治療について説明できる ⑥対象の課題を述べることができる	・既往歴・現病歴 ・入院の経緯・入院に至るまでの経過（身体的・心理的・社会的観点、家族関係、対人関係、社会関係、成育歴、生活歴、発達段階・発達課題等） ・疾病および症状のメカニズム、症状と生活状況、生活への影響、生活の困難さ（状況）、ストレス対処行動、心の構造、防衛、心の成長過程 ・健康管理状況（特に服薬管理） ・入院形態 ・必要な治療 ・社会生活を送る上での課題 ・入院に対する理解や認識、思い ・疾病や治療に対する理解や認識
(2) 患者が入院している環境を理解する	①精神科病棟の構造と機能およびその特徴を説明できる ②環境との相互作用について説明できる ③環境についての患者の思いを知ることができる	・病院の物理的環境・人的環境 ・外的・内的刺激と対象の行動（ストレス理論・適応理論）

(3) 対象者の生活の質を向上するために必要な看護を理解する	①情報の解釈や生活状況の関連から看護上の問題を明確にする ②看護の関わりによる期待する結果を明確にする ③患者と共通理解できる具体的目標を明確にできる ④患者の強みを活用した実施ができる ⑤実践過程を振り返り適切に評価し、修正できる	・情報収集とその関連図と全体像 ・看護上の問題の明確化（決定能力と実践能力） ・セルフケア能力・自己決定能力 ・看護システム（全・一部・支持・教育）
(4) 精神に障害を持つ対象が社会生活を送るために必要な継続支援を理解する	①対象に必要な社会資源を理解する ②対象者が地域で生活していく上でもつ困難さを考察できる ③看護職に求められる必要な援助や継続支援を考察できる	・社会福祉制度、社会福祉施策 ・精神保健福祉法・精神保健福祉施策 ・障害者自立支援法（身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法） ・介護保険法・医療保険法 ・権利擁護
(5) 患者との関わりを振り返り、自己理解、自己活用について理解する	①人間関係技術の基本を実施することができる。 ②対象者との相互作用の過程を振り返り、治療的人間関係技術について考察する。 ③対象との関わりを通し自己の傾向や自己活用について考察する。	・人間関係技術の基本 ・治療的人間関係技術 ・プロセスレコード ・自己の感情、自己の知覚 ・倫理観・人権尊重 ・自己の表現・自己の傾向・自己を見つめる ・相互作用 ・相互関係のプロセス ・問題解決の段階 ・傾聴・共感・受容 ・態度 ・看護師に必要な資質

5) 実習展開

(1) 学内実習 5コマ：実習1・2日目 10時間（1日目2コマ、2日目3コマ）

	内容
1日目	1. 実習オリエンテーション (1) 精神看護学実習のねらい・位置づけ、実習目的・目標・実習展開、事前学習、学習課題 (2) 受け持ち患者候補の紹介 受け持ち患者に関する病態生理・経過等の学習 2. ロールプレイ ロールプレイをもとにプロセスレコードで場面を振り返る 3. 事前学習 (1) 医療圏と精神病床・精神科の受療状況・平均在院日数などを調べ、「社会における精神看護・精神病院のニーズと役割」を考察する。 (2) これまでの実習や自分自身の生活における人間関係技術に焦点を当て、「精神看護学実習で学びたいこと」についてまとめる。 4. カンファレンス (1) ロールプレイを実施してわかったこと
2日目	1. 事前学習 (1) 隔離・保護と拘束について ・法的根拠と内容、合併症と看護について共有 (2) ケアの前提とケアの原則について 2. カンファレンス (1) 「社会における精神看護・精神病院のニーズと役割」 「精神看護学で学びたいこと」など事前学習をもとにカンファレンスと学びの共有

(2) 臨地実習 10日間

日数	実習内容	学習課題
1日目	①病院オリエンテーション ・病院の機能・役割・看護部の方針、看護目標・安全管理等について ②病棟オリエンテーション (病棟の構造と機能、閉鎖病棟における鍵・物品の管理、病室・隔離室の管理、看護方針・目標、その他管理事項、電子カルテの取り扱い、日・週の予定、実習に臨むにあたっての注意事項等) ③受け持ち患者の決定と同意確認 ④受け持ち患者を中心にプロセスレコードを通し対象理解および自己の振り返り ⑤カンファレンス：精神看護学実習で学びたいこと・自分の課題・明日への課題	事前学習提出 病院の看護目標・安全管理における学生の果たすべき役割 精神1 精神2 精神6
2日目	①受け持ち患者と適宜行動を共にする ②必要な情報を収集し情報収集、情報の解釈、推定問題の抽出 ③病棟の看護計画に沿った実践への参加 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神2 精神6
3日目	実習2日目と同様 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神2 精神6
4日目	実習3日目と同様 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神2 精神3 精神6

5 日目	実習 4 日目と同様 ＜中間カンファレンス＞ 患者の全体像の理解と看護の方向性（具体的計画含む） 資料）精神 2・3 用紙 対象理解および看護計画内容と方向性の検討、必要な修正と追加	精神 2 精神 3・4 (実施計画まで) 精神 6 実習自己評価（中間）
6 日目	病棟の看護計画に沿った実践への参加 看護計画の実践と評価 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神 2・3・4 精神 6
7 日目	病棟の看護計画に沿った実践への参加 看護計画の実践と評価 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神 2・3・4 精神 6
8 日目	病棟の看護計画に沿った実践への参加 看護計画の実践と評価 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神 2・3・4 精神 6
9 日目	病棟の看護計画に沿った実践への参加 看護計画の実践と評価 カンファレンス：(学生主体で行う)	精神 2・3・4 精神 6
10 日目	病棟の看護計画に沿った実践への参加 看護計画の実践と評価 ＜最終カンファレンス＞ ①看護実践の結果と課題 (情報収集からの流れを振り返り課題を明確にする) ②精神看護の役割	精神 2・3・4 精神 5 精神 6

※隔離室・身体拘束の見学は、指導者との調整により日程は決定する。
(実習記録用紙 精神 7 は、翌日提出)

6) 実習方法の概要

- (1) ストレスと危機、こころのはたらき、主な疾患とメカニズムについて学習しておく。特に、統合失調症や気分障害、神経症性障害に関しては、病態構造図を作成し対象理解に備える。
- (2) 受け持ち患者を 1 名決定し、実習を行う。
- (3) 日々の実習計画（本日の実習目標、予定）を立て実習を行う。実習計画は、毎朝、実習指導者・教員に確認・調整をする。
- (4) 受け持ち患者を中心として関わるが、可能な範疇で、習病棟に入院している患者全体に関わりながら看護を学ぶ。
- (5) カンファレンスは毎日行う。中間カンファレンス・最終カンファレンスは、病棟指導者（師長・実習指導者等）に参加を依頼し、助言を得る。日々のカンファレンスは学生（と教員）のみで行う。テーマは学生が決定し、本日の課題を解決し翌日の実習に繋がるように積極的にディスカッションする。
テーマの例）患者理解、実習内容の検討、治療的人間関係技術、看護実践の評価、行動制限について 等

7) 受け持ち患者

原則として病棟指導者が選出し一人を受け持つ。

8) 実習記録

(1) 事前学習 提出日：臨地実習前の学内実習日に提出する。

①これまでの看護学実習を振り返って、自己の課題を明確にし、「精神看護学実習で学びたいこと」について述べる。特に、**人間関係技術**に焦点をあてて述べる。(A4用紙1枚、800字程度)

②統合失調症・うつの病態構造図を作成(症状の整理)する。

③隔離・身体拘束について、内容や方法、必要性だけでなく法的根拠も含め調べる。

④精神障害を持つ人が活用できる社会制度・社会資源を調べる。

(2) 実習記録は実習開始前に教員、実習指導者に提出する。

(3) 実習ファイルは精神看護学実習最終日に実習指導者(実習病棟)に提出する。

(4) 実習ファイルの綴じ方：i 行動計画表、ii 精神1・2・3・4・5・6・7、iii 事前学習(①②③④)、インデックスを使用し見出しをつける。コピーやインターネットの引用のみプリントアウトは綴じない。評価表は別封筒に入れる。

※安全に関する体験報告書は、実習ファイルに綴じずに教員に提出する。

実習記録の配布は以下の通りである。

記録用紙	枚数	備考
実習計画表	3	
精神1 基本情報用紙	1	
精神2 患者理解用紙	11	
精神3 全体像	1	パソコン可
精神4 実施記録	5	
精神5 総括	1	パソコン可
精神6 プロセスレコード	10	
精神7 隔離・身体拘束体験学習	1	パソコン可
精神看護学実習評価表	1	
安全に関する体験報告書	1	

9) 実習評価

- ・自己評価の中間評価は中間カンファレンス日、最終評価は最終カンファレンス日の朝までに行う。
- ・他者評価は実習指導者及び担当教員が行う。

10) 注意事項

(1) 服装

- ①通学は動きやすい華美でない服装と靴（ミニスカート、ヒールのある靴、ブーツ、サンダルは禁止）とする。
- ②実習中は白衣を着用する。
- ③学校指定の名札をつける（紐は許可を得ること）。
- ④ハサミ・装飾品などの危険物となり得るものは、病棟に持ち込まない。（ポケットの中にも入れない。）
- ⑤頭髪は黒のネット等を活用しまとめる。

(2) 更衣室・学生控室の使用

指定された場所・ロッカーを使用する。更衣だけでなくカンファレンス・昼食でも使用するため使用後の後片付けは責任をもって行う。最終日はすべて清掃する。（他校と共同で使用している。）

精神看護学実習 実習評価表

学籍番号		学生氏名		病院	病棟
実習期間	令和 年 月 日 ~ 月 日	欠課時間		時間	分
	到達目標			自己評価	
				中間	最終
実習目標1 精神に障害を持つ対象を理解する	①対象者の健康障害に至るまでの経過とその背景を説明できる				
	②疾病や症状による生活への影響を理解できる				
	③対象の健康管理（治療薬等）について理解できる				
	④入院に対する思いや考えを理解できる				
	⑤対象の治療について説明できる				
	⑥対象の課題を述べることができる				
実習目標2 患者が入院している環境を理解する	①精神科病棟の構造と機能およびその特徴を説明できる				
	②環境との相互作用について説明できる				
	③環境についての患者の思いを知ることができる				
実習目標3 対象者の生活の質を向上するために必要な看護を理解する	①情報の解釈や生活状況の関連から看護上の問題を明確にする				
	②看護の関わりによる期待する結果を明確にする				
	③患者と共通理解できる具体的目標を明確にできる				
	④患者の強みを活用した実施ができる				
	⑤実践過程を振り返り適切に評価し、修正できる				
実習目標4 精神に障害を持つ対象が社会生活を送るために必要な継続支援を理解する	①対象に必要な社会資源を理解する				
	②対象者が地域で生活していく上でもつ困難さを考察できる				
	③看護職に求められる必要な援助や継続支援を考察できる				
実習目標5 患者との関わりを振り返り、自己理解、自己活用について理解する	①人間関係技術の基本を実施することができる				
	②対象者との相互作用の過程を振り返り、治療的人間関係技術について考察する				
	③対象との関わりを通し自己の傾向や自己活用について考察する				
実習態度	①事前学習ができる				
	②指定された期限内に記録ができる。				
	③疑問点について自己学習ができる。				
	④助言を受け止め、自己の意見も言える。				
	⑤グループ内で役割を果たし協調できる。				
	⑥時間を護ることができる。				
	⑦身だしなみを整えることができる。				
	⑧適切な言葉遣いができる。				
	⑨医療従事者との関係構築に向けて努力できる。				
	⑩個人情報の保護ができる。				
コメント					総合評価
実習指導者	印	担当教員	印		

<評価基準> ◎：優れてできる ○：できる △：不十分さを残すができる ×：できない

精神1ー基本情報シート

学籍番号

氏名

年齢・性別	年代	男性	女性
診断名・主訴			
既往歴			
治療計画			
入院までの経過			
入院から受け持ちまでの経過 (症状の経過、行われた治療、看護など)			
入院までの日常生活、家族背景、支援体制など			

精神2ー患者理解解記感用紙

学生氏名

ハターン	情報・整理	解釈	推定問題と強み

精神3－患者の全体像

学籍番号 氏名

<全体像>

<生活に支障になること・健康な面>

<取り組みそうな課題・支援方法>

精神4－実施記録

(月 日)

学籍番号 学生氏名

実施計画			
実施	結果 S:患者の反応、 O:観察項目に基づくデータ	A:アセスメント	P:計画

精神6-プロセスレコード 実習第()日 氏名

場面と意図		取り上げた理由	
対象の言動	感じたこと考えたこと	学生の言動	分 析 ・ 考 察
取り上げた理由に反っての考察		助 言	

※ 原則、2者(対象と学生)関係を繰り返して下さい。

精神5-総括 受け持ち患者の課題・介入した結果	精神科病院の機能と精神科看護師の役割	精神看護学実習で自分のできたこと、できなかったこと、今後への課題
----------------------------	--------------------	----------------------------------

学習目的	
体験と学び	